



公益財団法人電気通信普及財団

2023 年 3 月 19 日

電気通信普及財団賞(第 38 回)及び 2022 年度における助成援助案件の決定

公益財団法人電気通信普及財団(理事長 秋本 芳徳)は、2022 年度における「電気通信普及財団賞(第 38 回)」の受賞の著作・論文を決定するとともに、2022 年度研究調査助成及び 2022 年 11 月期シンポジウム・セミナー等開催援助等の助成援助案件を決定しました。

電気通信普及財団賞においては、テレコム人文学・社会科学賞、テレコムシステム技術賞に加え、昨年度新設したテレコム学際研究賞など 30 件の著作・論文の授賞を決定しました。

2022 年度研究調査助成として新規 75 件、1 億 2,063 万円、過年度からの継続 19 件、2,146 万円、2022 年 11 月期のシンポジウム・セミナー等開催援助として 11 件、1,040 万円を決定しました。

記

1 第 38 回電気通信普及財団賞

(1) テレコム人文学・社会科学賞	入賞 2 件、奨励賞 3 件
(2) テレコム人文学・社会科学学生賞	入賞 0 件、奨励賞 2 件
(3) テレコムシステム技術賞	入賞 5 件、奨励賞 1 件
(4) テレコムシステム技術学生賞	最優秀賞 1 件 入賞 7 件
(5) テレコム学際研究賞	入賞 3 件、奨励賞 2 件 特例表彰 1 件
(6) テレコム学際研究学生賞	入賞 2 件 奨励賞 1 件

2 2022 年度研究調査助成

(1) 人文・社会科学分野	19件	25百万円
(2) 技術分野	34件	50百万円
(3) 両分野に跨る分野	22件	46百万円
(4) 過年度採択分	19件	21百万円
計	94件	142百万円

3 2022 年 11 月期シンポジウム・セミナー等開催援助

11件	10百万円
-----	-------

受賞及び助成援助の具体的内容は別紙を参照願います。

以上

本件に関する連絡先

公益財団法人電気通信普及財団

事業部長 梶山正浩

電話:03-3580-3414

<https://www.taf.or.jp/>

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「マスメディアとは何か―「影響力」の正体」

（書籍発刊：中央公論新社，2022 年 7 月）

稲増 一憲 関西学院大学社会学部 教授

本書は、インターネットの普及にともないマスメディアへの不信が高まっているという認識を前提としつつ、マスメディアからインターネットまでを視野に入れて、メディアが受け手に与える影響について科学的に検証し、デジタル時代においてマスメディアがどのような役割を果たしうるかを考察している。21 世紀に通用するメディアの理解を指し示そうとする意欲的な著作である。

入賞（賞金 100 万円）

「Platform Information Transparency and Effects on Third-Party Suppliers and Offline Retailers」

（Wiley, Production and Operations Management, 2021 年 11 月）

善如 悠介 神戸大学大学院経営学研究科 准教授
角田 侑史 神戸大学大学院経営学研究科 准教授

本作における学術的な貢献はゲーム理論に基づくモデルを構築し、複雑なサプライチェーン全体を解明している点であり、実務的な貢献はプラットフォーム事業者からの情報共有の有無が卸売モデルと代理店モデルに、どのような影響を及ぼすかを明らかにした点である。モデル分析であるため実践的示唆に関して課題は残るものの、国際的に評価の高いジャーナルの査読論文であり、完成度は高く、テレコム人文学・社会科学賞の入賞に値する論文である。

奨励賞（賞金 50 万円）

「現代中国の官僚組織行動 電気通信事業改革の政治過程」

（書籍発刊：法律文化社，2021 年 10 月）

佐々木 智弘 防衛大学校人文社会科学群国際関係学科 教授

本作は、無線規格など電気通信事業改革に関する中国における中央指導部と郵電部の権力関係を分析した労作である。西洋の政権と官僚制の関係に関する理論が、共産党政権体制においてそのまま妥当するか否かについては、なお検証されたい。本書の分析は 3G までであり、その後 4G、5G に至る段階で中国の TD-LTE は有力な無線規格として世界的に普及し、今日の米中の対立の主たる争点となっている。ぜひ引き続き研究を続けられたい。

奨励賞（賞金 50 万円）

「ネット社会と民主主義―「分断」問題を調査データから検証する」

（書籍発刊：有斐閣，2021 年 11 月）

辻 大介 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
鈴木 謙介 関西学院大学社会学部 准教授
北村 智 東京経済大学コミュニケーション学部 教授
小笠原盛浩 東洋大学社会学部 教授
田辺 俊介 早稲田大学文学学術院 教授
樋口 耕一 立命館大学社会学部 教授
浅野 智彦 東京学芸大学教育学部 教授
三浦 麻子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
河井 大介 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教
渡辺健太郎 大阪大学大学院人間科学研究科 特任研究員
齋藤 僚介 大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程 3 年

本作は、ネットによる分断問題と民主主義の関係を全国調査とウェブ調査にもとづいて分析した論文集である。共通の問題意識をもつ著者らが、各視点から実証的・多角的に検証を行っている。11 名による合作であるが、共同研究であり全体で一本の著作物としてそれなりに編集されている。統計学の専門的手法を使っているが、分かりやすく書かれている。ネットと社会的分断の関係を精緻に研究した意義は大きい。

奨励賞（賞金 50 万円）

「ソシオテクニカル経営：人に優しいDXを目指して」

（書籍発刊：日本経済新聞出版，2022 年 9 月）

櫻井美穂子 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授
國領 二郎 慶應義塾大学総合政策学部 教授

本作は、既存研究や政策調査結果を丹念に参照しながら議論を展開しており、企業経営、政策にかかわる実践面への貢献は評価される。この分野に関心を持つ人に対する啓発書としては大変有益な著書だが、学術書としての完成度という点で、著者の今後の研究の深化を期待する。

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

奨励賞（賞金 30 万円）

「対話的構築主義によるジャーナリズムの戦争証言インタビューの再検討 ～NHK 戦争証言アーカイブスを事例として～」

（日本社会学会，社会学評論 72 巻 3 号，2021 年 12 月）

佐藤 信吾 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士課程 3 年

本論文は、NHK が公開している「戦争証言アーカイブス」にある 2 つの証言を分析することで、戦争証言を「聞き手＝ジャーナリスト」の構図でとらえる重要性を確認し、その視点から分析を積み上げる必要性を指摘する。情報通信というよりジャーナリズムの研究だが、インターネットによって可能になった戦争体験者の証言のアーカイブス化に着目し、その学術利用の可能性を示した点で、ドキュメンタリー研究への学術的貢献は大きい。

奨励賞（賞金 30 万円）

「オンライン脱抑制：構成概念の再考と新たなモデルの提案」

（心理学評論刊行会，心理学評論第 65 号，2022 年 10 月）

温 若寒 大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程 1 年
三浦 麻子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

本論文では、リアルの世界においてはある程度働いていると認められる心理的な「抑制効果」がオンラインの世界では必ずしも効かなくなること、すなわち「オンライン脱抑制」について関連文献を丁寧にレビューした上で、それを「心的状態」と見なし、内的動機と外的要因が行動につながるパスを調整するものであるという視点は評価できる。筆者が提唱している「動機付け・オンライン脱抑制モデル（MOD モデル）」の有効性、さらには社会的な応用可能性については今後の課題である。

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコムシステム技術賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「Learned Image Compression with Discretized Gaussian Mixture Likelihoods and Attention Modules」

（IEEE/CVF Computer Vision and Pattern Recognition Conference (CVPR) , 2020 年 6 月）

程 正雪 早稲田大学基幹理工学研究科 日本学術振興会特別研究員（PD）
孫 鶴鳴 早稲田大学理工学術院総合研究所 次席研究員（研究院講師）
竹内 健 早稲田大学理工学術院総合研究所 次席研究員
甲藤 二郎 早稲田大学基幹理工学部 教授

本論文は、学習型画像圧縮法において変分型オートエンコーダの構成に混合ガウス分布、アテンション、残差ネットワークを追加した新たなモデルを提案し、投稿当時に学習型静止画像圧縮法における世界トップの圧縮効率を達成した。PyTorch のライブラリや国際標準化 MPEG-VCM の基準モデルとして採用されており、今後の学習型画像圧縮への大きなインパクトを与える論文であり、テレコムシステム技術賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「300-GHz-Band OFDM Video Transmission with CMOS TX/RX Modules and 40 dBi Cassegrain Antenna toward 6G」

（電子情報通信学会, IEICE TRANSACTIONS on Electronics, 2021 年 10 月）

森下 陽平 パナソニック株式会社 インダストリー社※1 技術本部 主任技師
李 尚曄 東京工業大学 科学技術創成研究院 助教
寺岡 俊浩 パナソニック株式会社 オートモーティブ社※2 インフォテインメントシステムズ事業部 主任技師
董 鋭冰 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 研究員
檜野 祐一 株式会社パナソニック システムネットワークス開発研究所 技術センター 係長
浅野 仁 株式会社パナソニック システムネットワークス開発研究所 技術センター 主任技師
原 紳介 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 主任研究員
高野 恭弥 東京理科大学 理工学部 助教
片山 光亮 早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 講師
坂本 剛憲 パナソニック株式会社 インダストリー社※1 技術本部 主任技師
白方 亨宗 パナソニック株式会社 インダストリー社※1 技術本部 主幹技師
滝波 浩二 パナソニック株式会社 インダストリー社※1 技術本部 課長
高橋 和晃 パナソニック株式会社 インダストリー社※1 技術本部 主幹技師
笠松 章史 情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 上席研究員
吉田 毅 広島大学 大学院先端物質科学研究科 准教授
天川 修平 広島大学 大学院先端物質科学研究科 准教授
藤島 実 広島大学 大学院先端物質科学研究科 教授

- ※1 現・パナソニック インダストリー株式会社
 ※2 現・パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社

本論文は、300GHz 帯の通信利用を検証すべく距離 1m でスループット 36Gbps、距離 10m でリアルタイム動画伝送を実現した成果を述べている。技術的には、CMOS 送受信モジュールと高利得カセグレンアンテナを低損失で接続する構造を開発し、位相雑音を低減するためにセルフヘテロダイン方式を導入している。第 6 世代移動通信へのテラヘルツ帯の使用可能性を実機により示した点は高く評価でき、テレコムシステム技術賞に値する。

入賞（賞金 100 万円）

「Detecting Deepfakes with Self-Blended Images」

(IEEE/CVF Conference on Computer Vision and Pattern Recognition (CVPR) , 2022 年 6 月)

塩原 楓 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 博士課程 1 年
 山崎 俊彦 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 准教授

本作は、ICT 分野で現在、社会的に大きな問題となっているディープフェイク画像の検出に関する論文である。一枚の画像からいくつかパラメータを変更して作った複数の画像を混合するという独創的学習データ生成手法 (Self-Blended Images) を提案し、5つのベンチマークのうちの4つでMicrosoft等の既存手法を上回る高い検出精度を達成している。社会的な有用性は高く、テレコムシステム技術賞に値する。

入賞（賞金 100 万円）

「High-frequency and intrinsically stretchable polymer diodes」

(Nature Publishing Group, Nature, 2021 年 12 月)

松久 直司 慶應義塾大学理工学部電気情報工学科 専任講師
 Simiao Niu Chemical Engineering, Stanford University Postdoctoral scholar
 Stephen J. K. O'Neill Chemical Engineering, Stanford University Visiting student
 Jiheong Kang Chemical Engineering, Stanford University Postdoctoral scholar
 落合 優登 Chemical Engineering, Stanford University Visiting student
 勝又 徹 旭化成株式会社 研究・開発本部 高機能マテリアルズ技術開発センター
 光学材料開発部 主査

Hung-Chin Wu Chemical Engineering, Stanford University Postdoctoral scholar
 芦沢 実 東京工業大学物質理工学院 助教
 Ging-Ji Nathan Wang Chemical Engineering, Stanford University PhD Student
 Donglai Zhong Chemical Engineering, Stanford University Postdoctoral scholar
 Xuelin Wang Chemical Engineering, Stanford University, Visiting Student
 Xiwen Gong Chemical Engineering, Stanford University, Postdoctoral scholar
 Rui Ning Materials Science and Engineering, Stanford University, Master student
 Huaxin Gong Chemical Engineering, Stanford University, PhD student
 Insang You Chemical Engineering, Stanford University, Visiting student
 Yu Zheng Chemical Engineering, Stanford University, PhD student
 Zhitao Zhang Chemical Engineering, Stanford University, Postdoctoral scholar
 Jeffrey B.-H. Tok Chemical Engineering, Stanford University, Laboratory director
 Xiaodong Chen Materials Science and Engineering, Nanyang Technological University,
 President's Chair Professor
 Zhenan Bao Chemical Engineering, Stanford University, K. K. Lee Professor

ウェアラブルデバイスは5G時代のIoTデバイスとして、その重要度が増している。本論文は、従来の動作周波数100Hzを大幅に超える13MHz以上の伸縮性高周波ダイオードの開発に成功したものであり、実用的応用も広く、アクティブデバイスで伸縮性があるためウェアとしても利用でき、その応用はスポーツから医療、高齢者対応といったその広い技術と考える。研究のレベルもきわめて新規性、進歩性が高く、超一流雑誌で発表した論文であり、テレコムシステム技術賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「Unsupervised Learning of Depth and Depth-of-Field Effect from Natural Images with Aperture Rendering Generative Adversarial Networks」

(IEEE/CVF Conference on Computer Vision and Pattern Recognition (CVPR) , 2021 年 6 月)

金子 卓弘 日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所 特別研究員

本論文は、カメラの光学系を考慮した深層生成モデルを新たに構築することで、汎用的なカメラで撮影した多数の二次元静止画像から未知の深度とボケ効果の学習を実現し、従来法よりも高精度で深度を推定できることを実験によって明らかにしている。本研究はドローンなどによる三次元環境認識やメタバースにおける実世界空間再現などを可能とする有力な手段として認められ、テレコムシステム技術賞にふさわしいと高く評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Fabrication of low-loss quasi-single-mode PPLN waveguide and its application to a modularized broadband high-level squeezer」

(American Institute of Physics, Applied Physics Letters, 2021 年 12 月)

柏崎 貴大 日本電信電話株式会社 先端集積デバイス研究所 機能材料研究部
異種材料融合デバイス研究G 研究員

山嶋 大地 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻

高梨 直人 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻

井上 飛鳥 日本電信電話株式会社 先端集積デバイス研究所 機能材料研究部
異種材料融合デバイス研究G 研究員

梅木 毅伺 日本電信電話株式会社 先端集積デバイス研究所 機能材料研究部
異種材料融合デバイス研究G 特別研究員

古澤 明 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻 教授
理化学研究所 量子コンピュータ研究センター 副センター長

量子コンピュータは世界的な競争の中、今後期待される最重要トピックスで世界的な研究の競争が始まっている。その中で本論文は、他の量子コンピュータへの研究アプローチとは異なり、高性能なスクィーズド光生成が可能な光ファイバ系低損失導波路の開発に世界で初めて成功したものである。光量子コンピュータは究極の量子コンピュータ技術でもあり、その実現に極めて大きな一歩を残した、論文の質、内容とも極めて優れた論文である。

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコムシステム技術学生賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

最優秀賞（賞金 80 万円）

「Twin Meander Coil: Sensitive Readout of Battery-free On-body Wireless Sensors Using Body-scale Meander Coils」

(Proceedings of the ACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies, 2021 年 12 月)

高橋 亮 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 博士後期課程 2 年

共著者 雪田 和歌子、笹谷 拓也、横田 知之、染谷 隆夫、川原 圭博

本論文は、Twin Meander Coil を使い衣類近傍に磁界を集中させ、給電を行わず高感度な無線信号の読み取りが可能なウェアラブルデバイスの研究である。ウェアラブルセンサの新たな可能性を開いている。本学生は ACM CHI の Best Paper 受賞を含め国内外で多くの受賞があり、FIT2022 の招待講演も行っている。研究立案から、洋服にコイルを織り込んだ実験と特性検証も含め、論文への貢献は特筆でき、テレコムシステム技術学生賞の最優秀賞に値する。

入賞（賞金 50 万円）

「Blind Multiple Measurement Vector AMP Based on Expectation Maximization for Grant-Free NOMA」

(IEEE, IEEE Wireless Communications Letters, 2022 年 6 月)

原 郁紀 電気通信大学 先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター
博士後期課程 3 年

共著者 石橋 功至

本論文では、無線通信の上り回線が大規模なグラントフリー非直交多元接続で動作する形態におけるアクティブユーザ検出とチャネル推定を、事前情報のラージスケールフェーディング係数なしに実現する EM-MMV-AMP と呼ぶ方式を提案している。受賞学生は本論文に対して大きく貢献し、学会発表にも積極的であることから将来有望な若手研究者として活躍が期待される。よってテレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

(注) EM (expectation-maximization) : 期待値最大化

MMV-AMP (multiple measurement vector-approximate message passing) : 複数観測値を用いた近似メッセージ伝播法

入賞（賞金 50 万円）

「A General Destriping Framework for Remote Sensing Images Using Flatness Constraint」

(IEEE, IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, 2022 年 2 月)

長沼 一輝 東京工業大学情報理工学院大学院 修士課程 2 年

共著者 小野 峻佑

本論文は、リモートセンシング画像における縞状ノイズの除去において、正規化指標に依存しない新たなノイズ指標を提案し、任意の正則化指標と組み合わせたノイズ除去手法を提案している。ノイズ除去を最適化問題として定式化し、効率的に解くアルゴリズムを示した点を高く評価する。本学生は課題設定、定式化、アルゴリズム設計、実験、論文執筆の全てを主体的に行っており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Mobility-aware User Association Strategy for IRS-aided mm-wave Multibeam Transmission Towards 6G」

(IEEE, IEEE Journal on Selected Areas in Communications, 2022 年 5 月)

橋田 紘明 東北大学大学院情報科学研究科 博士後期課程 1 年

共著者 川本 雄一、加藤 寧、岩渕 匡史、村上 友規

本論文では、複数のインテリジェントリフレクタを配置したセル構成に関して、通信端末の移動を予測してリフレクタを割り当てる方式を提案している。シミュレーション結果として、提案方式が通信端末の接続確率と伝送容量の多目的最適化によって得られるパレート解を改善することを示している。受賞学生は本論文に対して大きく貢献し、学会発表にも積極的であることから、将来有望な若手研究者として活躍が期待される。よってテレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Self-Supervised Contrastive Learning for Singing Voices」

(IEEE Press, IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing,
2022 年 4 月)

矢倉 大夢 筑波大学大学院システム情報工学研究群
知能機能システム学位プログラム 博士後期課程 2 年

共著者 渡邊 研斗、後藤 真孝

多くの AI、機械学習を利用した研究の中で、本研究は大変にユニークである。人間が歌手を推定している歌声は、容易には学習のみでは認識できない。そこで本研究では、教師なし対照学習を歌声に応用し、歌手の認識や類似の歌手の探索が可能な実用化が期待できる技術の研究である。これにより、ピッチシフト等の影響も考慮し、高度に同一歌手を分別する等、新しい成果も得られ、今後さらなる向上で機械学習が人間の認識に近づき実用的にも極めて有用な論文である。よってテレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「PoF: Post-Training of Feature Extractor for Improving Generalization」

(ICML2022, 2022 年 7 月)

山田 陵太 東京工業大学情報理工学院情報工学系知能情報コース 修士課程 1 年

共著者 佐藤 育郎、田中 正行、井上 中順、川上 玲

本論文は、既に学習済みの深層ニューラルネットワークに対して、事後的な学習の追加によって近傍が平坦な最小値を探索して汎化能力を向上する手法を提案し、Google が開発した最高性能の手法を上回る認識性能を達成している。推薦文によると、本学生の貢献は指導教員と同程度であるという記載は控えめであるが、学習に関する統計量の評価やアルゴリズムの開発において主たる貢献をしており、修士学生であることを考慮すれば十分である。よって、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Time-Frequency-Bin-Wise Linear Combination of Beamformers for Distortionless Signal Enhancement」

(IEEE/ACM, IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing, 2021 年 11 月)

山岡 洸瑛 東京都立大学 システムデザイン研究科 情報科学域 博士後期課程 2 年

共著者 小野 順貴 牧野 昭二

本論文では、雑音を抑圧して歪なく音源を強調する技術として、最小分散無歪応答ビームフォーマと時間周波数スイッチングおよび時間周波数線形結合を統合する方法を提案している。ビームフォーマの設計と時間周波数マスクの推定を同時最適化問題として定式化し、解法アルゴリズムも導出している。受賞学生は本論文に対して大きく貢献し、学会発表にも積極的であることから、将来有望な若手研究者としての活躍が期待され、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Image reconstruction with Transformer for mask-based lensless imaging」

(The Optical Society, Optics Letters, 2022 年 4 月)

潘 秀曦 (Pan Xiuxi) 東京工科大学工学院 博士後期課程 3 年

共著者 Chen Xiao、武山 彩織、山口 雅浩

従来、多くの研究がされている画像の深層学習の中で、本研究は新規性が高くユニークである。多くのピンホールを面的に並べたピンホールカメラの集合体であるレンズレスカメラの符号化されたパターンから、元の画像の再構成に深層学習のビジョントランスフォーマーを適用した。各種工夫を行い、結果として今までにない大幅な性能向上が実現した。構想から高度な実験等まで入賞者は極めてレベルの高い研究を行った論文であり、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム学際研究賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「I Hear My Voice; Therefore I Spoke: The Sense of Agency Over Speech Is Enhanced by Hearing One's Own Voice」

(SAGE Publications Inc., Psychological Science, 2022 年 8 月)

大畑 龍 東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室 特任研究員
浅井 智久 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所
認知機構研究所 認知神経科学研究室 主任研究員
今泉 修 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 准教授
今水 寛 東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室 教授

本論文では、行為を行うもの（例えば話者）に対するフィードバックの影響による行為主体感の変化を実験的に解明した。行為主体感を高められるとより積極的な会話等になるという注目すべき結果を得ている。このことは人間が制御する将来のロボット等ではなく、メタバースの時代にはいかに積極的に仮想空間で活動し仮想社会を活性化することへ繋がると考えられるユニークな研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「研究利用可能な小論文データに基づく参照文書を利用した小論文採点手法の開発」

(情報処理学会, 情報処理学会論文誌, 2021 年 9 月)

竹内 孔一 岡山大学学術研究院自然科学学域 准教授
大野 雅幸 住友電気情報システム株式会社 テクニカル・コンサルタント
泉仁 宏太 株式会社 NTT データ MSE 社員
田口 雅弘 岡山大学学術研究院社会文化科学学域 教授
稲田 佳彦 岡山大学学術研究院教育学域 教授
飯塚 誠也 岡山大学全学教育・学生支援機構 教授
阿保 達彦 岡山大学学術研究院自然科学学域 教授
上田 均 岡山大学学術研究院自然科学学域 教授

本論文は、小論文の採点という教育現場において大変重要かつ負担の大きい課題について、現実的な自動採点手法を実装している点が高く評価できる。特に人文学、経済、科学をテーマに関して 4,800 件の答案データを構築し公開している点、それらを用いた評価実験の結果、手法の面でも先行研究を上回る高い性能を実現していることが評価できる。この分野の今後の発展の道を切り開いた作品であると言えることから、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「Kiite Cafe: A Web Service for Getting Together Virtually to Listen to Music」

(22nd International Society for Music Information Retrieval Conference (ISMIR 2021),
2021 年 11 月)

佃 洸撰 国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員
石田 啓介 国立研究開発法人産業技術総合研究所 テクニカルスタッフ
濱崎 雅弘 国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究グループ長
後藤 真孝 国立研究開発法人産業技術総合研究所 首席研究員

COVID-19 以降、例えば友人と一緒に音声を聞きながら時間と空間を共有することは減った。本研究で実現された“Kiite Cafe”は Web 上で集まって、同じ曲を聴きながらコミュニケーションをするものである。5 か月以上の実験的研究の後に実用にも供し、その有効性は広く決められ、いわば「文化」として根付いた。これは単なる学術研究で終わらず、社会実装を通して新しい文化サービスをクリエーションした実学として素晴らしい研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「AI 技術と集団的労働法上の課題

ー集団的利益調整の位置付けと不当労働行為制度の解釈に着目してー」

(労働開発研究会, 季刊労働法 275 号, 2021 年 12 月)

岡村 優希 株式会社情報通信総合研究所 主任研究員／同志社大学 研究員

本論文は、経営者による雇用管理が AI による雇用管理によって代替される場合の労働法上の位置づけに関し、個別労働法ならびに集団的労働法の双方において、労働者性の成否（非雇用化）、不当労働行為の成否（不利益取扱いの意思の存否）などについて、機械学習と深層学習に分け、位置づけている論文である。人的組織が情報システムを介した場合の法的問題を鋭く解析しており、学際論文としてのオリジナリティがある。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Confidence modulates the decodability of scene prediction during partially-observable maze exploration in humans」

(Nature Portfolio, Communications Biology, 2022 年 4 月)

片山 梨沙 京都大学大学院情報学研究科 博士後期課程 1 年
吉田 和子 オックスフォード大学 Nuffield 医療神経科学部 研究員
石井 信 京都大学大学院情報学研究科 教授

本論文は、3 次元空間における迷路探索課題をバーチャルリアリティゲームとして実装し、迷路内を移動中に脳内に構築されるシーン予測とその主観的確信度の両方が脳活動パターンから解読可能であることを示している。予測の確信度が高いほど、その予測を表現する脳活動がより明瞭になるという知見を見出した点を高く評価する。将来的にはブレイン・マシン・インターフェースを用いた情報通信技術への応用が期待される。

特例表彰（賞金 75 万円）

「特集「インフォデミック時代の AI とサイバーセキュリティ」

（映像情報メディア学会，映像情報メディア学会誌，2022 年 7 月）

越前 功	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 教授
馬場口 登	大阪大学 データビリティフロンティア機構 特任教授 福井工業大学 教授
笹原 和俊	東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授
中島 悠太	大阪大学 データビリティフロンティア機構 准教授
Trung-Nghia Le	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 特任助教
Huy Hong Nguyen	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 特任研究員
山岸 順一	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授
Canasai Kruengkrai	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 特任助教
李 良知	大阪大学 データビリティフロンティア機構 特任助教
王 博文	大阪大学 博士後期課程 3 年
宮崎 邦洋	東京大学 博士後期課程 3 年
小林 正啓	大阪弁護士会 弁護士

本作は、シンセティック・メディアの負の側面の問題について、技術的観点からの検討のみならず、社会的観点ならびに法整備の現状をもカバーしており、「インフォデミック」を概観するにふさわしく、時宜を得た学際論文集である。学会誌の特集記事である点は審査員で評価が分かれたところであるが、フェイクメディアをいかに克服するか、という研究成果としての価値は高く特例表彰とした。

第 38 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム学際研究学生賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 50 万円）

「Gaze+Lip: Rapid, Precise and Expressive interactions Combining Gaze Input and Silent Speech Commands for Hands-free Smart TV Control」

(The 2021 ACM Symposium of Eye Tracking Research & Applications, 2021 年 5 月)

蘇 子雄 東京大学大学院学際情報学府総合分析情報学コース 修士課程 1 年

共著者 張 鑫磊、木村 直紀、暦本 純一

本論文は、研究室で培われた読唇技術を視線入力と組み合わせたハンズフリー入力方式の提案である。着眼点が良く、視線入力単独と比べ入力誤りが減少し、ユーザの負担が軽減し実用性が上がっている。修士 1 年で国際会議が 2 件あり、システム実装、検証実験、論文執筆を行ない、論文への貢献は大きい。ヒューマン・コンピュータ・インタラクションにおける作業負荷の測定があり、修士論文であることを鑑みると、学際研究の条件を満足している。よって、テレコム学際研究学生賞に相応しいと評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Wi-GaL: WiFi Sensing and Machine Learning Based Device-Free Crowd Counting and Localization」

(IEEE, IEEE Access, 2022 年 3 月)

CHOI HYUCKJIN 奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 博士後期課程 3 年

共著者 藤本 まなと、松井 智一、三崎 慎也、安本 慶一

本論文では、WiFi のチャネル状態情報 (CSI) を用いたワイヤレスセンシングとして、小型の WiFi モジュール ESP32 をデバイスとして使用し、機械学習さらには深層学習を導入することによって、室内環境における群衆の人数と位置を同時に推定する方法を提案している。情報通信技術の社会展開に位置付けられる研究内容であり、テレコム学際研究学生賞に相応しいと評価する。受賞学生は本論文に対して大きく貢献し、将来有望な若手研究者として活躍が期待される。

奨励賞（賞金 30 万円）

「ZEL: Net-Zero-Energy Lifelogging System using Heterogeneous Energy Harvesters」

(The 20th International Conference on Pervasive Computing and Communications
(IEEE PerCom 2022), 2022 年 3 月)

有田 充 九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻 修士課程 1 年

共著者 中村 優吾、石田 繁巳、荒川 豊

本論文は、太陽電池を場所推定や行動認識などのライフログ情報を推定するためのセンサーかつ電源として利用する新しいゼロエネルギーライフログシステムを提案し、実証実験によって、高精度で場所や運動の推定が行え、かつバッテリーレスでの稼働率 99.6%が達成できることを確認している。今後は、実用化に向けたデバイスの小型化の他、推定可能な状態の多様化、使用上の制約の明確化や緩和などの展開に期待する。

2022年度研究調査助成

金額:千円

項目	件数	金額	掲載頁
合 計	94	142,082	－
人文学・社会科学分野	19	24,707	2
技術分野	34	50,373	5
両分野にわたる研究	22	45,547	9
過年度採択分	19	21,455	12

2022年11月シンポジウム・セミナー等開催援助

金額:千円

項目	件数	金額	掲載頁
合 計	11	10,400	－
学術分野	8	7,700	15
社会貢献分野	3	2,700	16

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
法政大学 経営学部 教授 大木 良子	パネルデータによるデジタルプラットフォーム市場の競争メカニズム解明	900
公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構(科研費研究機関番号:84504) 人と防災未来センター(科研費研究機関番号:004) 主任研究員 伊藤 潤	災害情報共有システムの統合および標準化に向けた政策的課題に関する研究	382
静岡県立大学 経営情報学部 講師 松岡 清志	自治体におけるデジタル・トランスフォーメーション政策の波及・移転に関する研究	781
国立大学法人東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 メディア情報学講座 メディア文化論分野 特任助教(研究) 王 楽	東京圏チャイナタウンの空間変容とネットメディア・ソーシャルメディアに関する研究:東京都池袋地区を対象として	637
東北学院大学 教養学部 准教授 井川 純一	インターネット上の匿名他者のコメントによる社会的影響 YahooとYouTube のコメント機能に着目した実験的検討	1,895
大阪市立大学大学院 都市経営研究科 博士後期課程 阪西 洋一	地域不動産業における自律分散型プラットフォームの社会経済価値に関する分析	2,254
東北大学 大学院情報科学研究科 准教授 河村 和徳	非言語情報としての「声」の質が政治的選択にもたらす影響に関する実証分析	1,260
聖和学園短期大学 保育学科 准教授 上村 裕樹	子育ての社会化を図るための“保育ICT”の活用(延長)	2,222

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
日本大学 経済学部 助教 江上 弘幸	ビデオゲームがメンタルヘルスに与える影響の 解明: 自然実験と機械学習を用いて	1,350
星槎大学 中島研究室 特任教授 中島 功	パンデミック環境で医療側が求める情報通信技 術、非対面診療の課題と効用	1,840
岩崎学園情報セキュリティ大学院大 学 情報セキュリティ研究科 准教授 稲葉 緑	信憑性を意識していない状況で情報の虚偽に気 づく認知機序の解明	1,271
東洋大学 経済学部総合政策学科 准教授 加藤 綾子	デジタルプラットフォーマーを介したUGCの発信・ 受容と取引実態に関する調査	3,000
江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文 化学科 講師 松尾 由美	ながらスマホ育児の悪影響を防ぐ保護者啓発プ ログラムの開発	1,375
九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター 特任准教授 錦谷 まりこ	SNSを介した高齢者の行動変容と孤立・孤独感 の評価研究	1,450
法政大学 社会学部 准教授 土橋 臣吾	デジタルメディア利用のライフヒストリー研究	530
立教大学 社会デザイン研究所 研究員 真田 尚剛	Jアラート(全国瞬時警報システム)による国民保 護の現状と課題	730
大阪成蹊大学 教育学部看護学部設置準備室 講師 石川 信仁	地域在宅高齢者支援に向けたハイブリッド家庭 訪問教育教材モデルの開発	1,130

2022年度研究調査助成 人文学・社会科学分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
佛教大学 社会学部公共政策学科 准教授 三重野 雄太郎	不正指令電磁的記録に関する罪をめぐる総合的研究	550
成城大学 法学部 教授 村上 裕章	個人情報保護のための法的規制手法に関する研究	1,150

人文学・社会科学分野 19件 24,707千円

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 准教授 成田 匡輝	ビッグデータ化したサイバー攻撃パケットを視覚化するための情報システムの開発	700
長崎県立大学 情報システム学部 情報システム学科 教授 平岡 透	復元誤差によるノンフォトリアリスティックレンダリングの開発	1,000
室蘭工業大学 もの創造系領域 教授 水上 雅人	自律移動マイクロロボット群制御のための機械学習によるロバスト自己位置推定	1,200
九州工業大学 情報工学研究院 情報・通信工学研究系 助教 邵 成龍	ユビキタスセンシングのためのLoRaWANによる近接検知・広域測位技術	1,600
筑波大学 システム情報系 助教 家永 直人	MoCapによらない三次元空間における身振りの自動位置推定システムの提案	2,300
北海道大学大学院 情報科学研究院 准教授 藤澤 剛	機械学習設計技術による量子情報通信向けSiN導波路光パワー分岐素子の研究	1,500
東京都立大学 システムデザイン研究科 特別先導教授 石川 博	AIビッグデータ応用における仮説解釈説明の構造探求と関連情報通信技術の体系化	1,500
明星大学 情報学部 情報学科 准教授 植木 一也	新しい映像・テキストの対応付け方法による映像検索の問題点の解決	2,431
国立大学法人名古屋工業大学 工学研究科 工学専攻 情報工学系プログラム 准教授 松井 俊浩	自律ロボット・IoT機器用メッセージ指向ミドルウェア上の非集中型最適化基盤	957

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
日本大学 工学部・情報工学科 教授 源田 浩一	自律移動ロボット群を用いたフレキシブル通信 ネットワーク構成方法	1,000
東北大学 電気通信研究所 准教授 横田 信英	光無線通信とFMCW LiDARを両立する集積光デ バイスの研究	1,500
早稲田大学 理工学術院総合研究所 次席研究員(研究院講師) 孫 鶴鳴	学習型静止画像圧縮の実用化に関する研究	1,000
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 教授 岡本 浩行	プラズモニクスとフォトニクスセルフイメージン グ活用ハイブリッド通信デバイス開発	1,730
筑波大学 システム情報系情報工学域 准教授 西出 隆志	プライバシー保護型データ解析手法の計算高速化 に関する研究	861
沼津工業高等専門学校 制御情報工学科 助教 金子 裕哉	室内3Dモデルを用いた通信環境シミュレーション による電波反射板の設置位置最適化	1,000
長野工業高等専門学校 工学科 助教 力丸 彩奈	スマートスペース実現に向けた小型デバイスを用 いた動作判定のための研究	2,769
東京理科大学 工学部・電気工学科 准教授 丸田 一輝	多様なアンテナ配置形態におけるMassive MIMO 伝送技術の開拓	1,500
東京理科大学 理工学部 電気電子情報工学科 助教 原 郁紀	グラントフリー非直交多元接続における高精度な 周波数オフセット補償法の開発	1,000
国立大学法人千葉大学 大学院工学研究院 教授 安 昌俊	画像化手法による超多接続の通信環境推定と GANによるAI学習データ生成・拡張法	2,664

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
国立大学法人東海国立大学機構名 古屋大学 大学院工学研究科 准教授 藤原 幸一	超短時間心拍変動解析によるウェアラブル心房 細動重症度診断クラウドAIの開発	2,900
三重大学 大学院工学研究科電気電子工学専 攻 准教授 松井 龍之介	プリントドエレクトロニクスによる□□超薄型電波吸 収メタマテリアルの開発	1,750
千葉大学 大学院工学研究院 教授 川本 一彦	ロバスト IoT × AIのための深層防御システムの 研究調査	880
秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 電気・電子・情 報系 講師 菅原 英子	マイクロ波散乱波による物体内部の物質推定法 の医療診断システムへの応用	1,500
千葉工業大学 先進工学部知能メディア工学科 教授 宮田 高道	線形化した知覚品質予測とStein の不偏リスク推 定による画像復元手法の研究	750
電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報・ネッ トワーク工学専攻 准教授 劉 志	連合強化学習を用いた点群映像ストリーミング に関する研究	1,250
徳山工業高等専門学校 機械電気工学科 准教授 宮崎 亮一	観測信号のみを用いた教師なし DNN 音声強調 に関する研究	1,300
茨城大学大学院 理工学研究科 情報科学領域 講師 小澤 佑介	多元接続型可視光ワイヤレス給電通信による完 全ワイヤレス海中ドローンネットワークに関する 研究	1,722
東海大学 情報理工学部コンピュータ応用工学 科 准教授 村松 聡	人間-農作物の相互連携型スマート農業におけ る農作物アピランスに基づく土壌養分推定の 検討	1,600

2022年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
神戸大学 大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 助教 葛野 弘樹	オペレーティングシステムにおける特権昇格攻撃防止を目指すセキュリティ機構の研究	900
九州大学 大学院システム情報科学研究所・情報エレクトロニクス部門 助教 カーリヤワサム アミラ	光アクセスネットワークにおける適応変調の実装と低消費電力化に関する研究	1,711
一橋大学 情報基盤センター 講師 中田 亮太郎	公開コンテナイメージを利用したサイバーレンジのシナリオ開発の研究	2,300
香川大学 創造工学部 准教授 石井 光治	みちびき信号を含む GNSS 擬似信号生成とスプーフィング対策の研究開発	1,300
鶴岡工業高等専門学校 創造工学科 情報コース 准教授 金 帝演	ペット用熱中症予防システムの開発	1,148
群馬大学 総合情報メディアセンター 講師 小川 康一	運用管理者の視点と経験を活用する自動ラック監視システムの開発	1,150

技術分野 34件 50,373千円

2022年度研究調査助成 両分野にわたる研究

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
豊橋技術科学大学 情報メディア基盤センター 准教授 土屋 雅稔	推論の根拠を提示できる矛盾検出テストセットの研究	1,848
豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 助教 日根 恭子	バーチャルリアリティにおける視点自由度と知覚の正確さの関連の検討	3,000
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教 王 子洋	一対多遠隔指示の指示者支援技術ー作業者の戸惑い・順調レベル提示による負荷の低減	2,800
大阪大学大学院人間科学研究科 臨床死生学・老年行動学講座 博士後期課程1年生 李 曉旋	高齢者の認知機能・運動機能・動体視力の向上を支援するVRTレーニングシステム	1,050
九州大学 大学院芸術工学研究院音響設計部門 助教 若宮 幸平	調音・音声データベースの構築	2,947
国立大学法人 北海道国立大学機構 小樽商科大学 商学部 社会情報学科 教授 木村 泰知	表形式データおよびテキストを対象とした根拠抽出に関する研究	2,900
早稲田大学 データ科学センター 准教授 堀井 俊佑	観察データと実験データによる統計的因果推論のための実験計画法に関する研究	1,150
東京大学 大学院総合文化研究科・広域科学専攻・広域システム科学系 教授 植田 一博	人工物の形状と動きがもつ適度なヒトらしさの重要性:人工物設計に向けた基礎研究	1,150
九州大学 大学院医学研究院 講師 菊地 君与	母子遠隔健診に関する合併症リスク予測システムの開発研究	2,253

2022年度研究調査助成 両分野にわたる研究

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
東京電機大学 工学部電子システム工学科 EH 田所 研究室 研究員 中川 秀紀	妊産婦を対象とした軽度精神疾患検出データ ベースシステムの構築	970
日本薬科大学 薬学部医療ビジネス薬科学科 教授 村井 はるか	人工知能を用いた高齢者の同意能力評価と合 意形成支援に関する研究	2,860
慶應義塾大学 大学院 経営管理研究科 教授 高橋 大志	高頻度データ分析を通じたニュース情報が投資 家行動に与える影響の解明	2,530
立命館大学 情報理工学研究科 博士後期課程学生 西本 騰	遠隔医療学習を可能とする医療教育シミュレータ の開発	2,940
筑波大学 図書館情報メディア系 助教 小野 永貴	中学・高校での探究学習指導を効率化する「プレ ゼンテーション指導AI」の研究開発	990
東京工科大学 メディア学部 准教授 山崎 晶子	遠隔代理ロボットによる人々の共同観賞の支援： 共同記憶と共同経験の組織化を中心に	2,840
東都大学 幕張ヒューマンケア学部 臨床工学科 研究助手 山下 知子	スマートデバイスを用いた子どもの足部骨格マ ルチセンシングシステムの開発	1,441
東京海洋大学 学術研究院 海洋環境科学部門 准教授 片野 俊也	シチズンサイエンスのためのスマートフォンを利 用した赤潮観測体制の構築	1,499
神奈川工科大学 情報学部 情報工学科 教授 田中 博	手話動作セグメンテーションと言語的推論に基づ く認識手法の確立とその応用	1,886

2022年度研究調査助成 両分野にわたる研究

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
東京都立大学 システムデザイン学部 准教授 福井 隆雄	VR環境の対人インタラクションにおける発達傾向と文化差の相互作用	1,700
奈良女子大学 研究院工学系 准教授 佐藤 克成	「ぬくもり」の相互伝達が可能な遠隔コミュニケーションによる生きがい創出	2,000
筑波大学 システム情報系・情報工学域 准教授 蔡 東生	浄瑠璃人形遣いとウェアラブルロボットアームの協調インタラクションに関する研究	2,893
九州大学 ユニス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター 学術研究員 Abedin Nuren	SDGs#5.4 を実現に途上国ファミリーライドシェアモデルについて調査研究	1,900

両分野にわたる研究 22件 45,547千円

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
人文学・社会科学分野	2021年度	信州大学 学術研究院教育学系 教授 島田 英昭	学校防災マニュアルのクラウド化とその普及—特別支援学校を事例として—	445
人文学・社会科学分野	2021年度	東京大学 大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 講師 中村 和彦	森林音のエンタテインメント性を向上させる音楽演奏とインターネット配信	807
技術分野	2021年度	長崎大学 大学院工学研究科 技術専門職員 山下 優	異常肺音識別における音響モデル学習のためのデータベース拡張法の検討	400
技術分野	2021年度	福岡工業大学 工学部・電子情報工学科 助教 田村 瞳	Society5.0実現のためのIoT/CPSにおけるアプリケーション・トラヒックの特性分析と推定	1,500
技術分野	2021年度	慶應義塾大学 電気情報工学科 専任講師 吉岡 健太郎	新規アナログ回路技術を用いたインメモリ演算回路の研究	1,000
技術分野	2021年度	鹿屋体育大学 スポーツ情報センター 助教 迫田 和之	大容量無線通信に用いる新たなBP信号検出へのDNNを用いた学習の応用	835
技術分野	2021年度	東京工業大学 科学技術創成研究院未来産業技術研究所 助教 李 尚曄	リモートワークセキュリティ強化のためのマルチバンド5G電波遮蔽シートの研究	1,500
技術分野	2021年度	秋田工業高等専門学校 創造システム工学科電気・電子・情報系 教授 伊藤 桂一	高誘電率誘電体線路を用いた次世代ミリ波通信用小型広帯域アンテナシステムの開発	750
技術分野	2021年度	東京電機大学 システムデザイン工学部 デザイン工学科 准教授 齋藤 健太郎	ロボット・ドローンによる無線ネットワークの管理手法	1,500

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
技術分野	2021年度	大阪府立大学 大学院 工学研究科 電気 情報系専攻 助教 江 易翰	RISを用いたOTA連合学 習における省エネ技術 の開発	1,181
技術分野	2021年度	北海道大学 大学院工学研究院・応用物 理学部門 助教 迫田 将仁	サイズ効果モット絶縁 体を利用した低エネル ギーFETの開発	1,500
技術分野	2021年度	室蘭工業大学 大学院工学研究科 文部科学省卓越研究員(助 教) 李 鶴	災害に強いIoTシステム の研究開発	1,500
両分野に 跨る	2021年度	東京都市大学 メディア情報学部・情報シ ステム学科 教授 市野 順子	バーチャル空間で親密 な人間関係の形成を促 すための ノンバーバルキューの 提示方法	2,500
両分野に 跨る	2021年度	国立研究開発法人理化学研 究所 情報統合本部・ガーディ アンロボットプロジェクト・ 心理プロセス研究チーム 研究員 難波 修史	仮想空間社会の実現に 向けた表情データベー スの構築および表情検 出システムの開発	1,250
両分野に 跨る	2021年度	北里大学病院 医学部救命救急医学 助教 服部 潤	119電話通報からの脱却 を目指して: AI活用の ためのデジタル視覚 データ基盤の実証研究	1,225
両分野に 跨る	2021年度	岩手県立大学大学院 ソフトウェア情報学研究科 学生(博士後期課程) 山下 圏	ネットワークを介した 協調作曲におけるアノ テーションの利用可能 性に関する研究	572
両分野に 跨る	2021年度	東京海洋大学 学術研究院 海洋環境科学 部門 准教授 吉田 毅郎	AIによる水中カメラ画 像解析を用いた複合養 殖生物のモニタリング	950
人文学・ 社会科学 分野	2020年度	山形大学 人文社会科学部 准教授 小林 正法	オンライン心理学実 験・調査環境の構築と 検証: 本邦での普及を 目指して	740

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
技術分野	2020年度	福知山公立大学 情報学部 講師 河合 宏紀	絹織物の3Dアニメーションデジタルアーカイブと感性検索システムの開発	1,300

2022年度 助成 19件 21,455千円

2022年11月期 シンポジウム・セミナー等開催援助(学術分野)

申込団体名・申込者	会議、シンポジウム・セミナー等名	援助金額 (千円)
AWAD2023組織委員会 AWAD2023組織委員長 大見俊一郎	第30回先端半導体デバイスに関するアジア太平洋 ワークショップ(AWAD2023)	800
公益社団法人 応用物理学会(微 小光学研究会) 微小光学研究会 代表 伊賀健一	第28回微小光学国際会議(The 28th Microoptics Conference, MOC2023)	1,000
第46回情報理論とその応用シンポ ジウム 実行委員会 上智大学理工学部 教授 澁谷智治	第46回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2023)	1,000
PAKDD2023 組織委員会 代表 櫻井保志	PAKDD2023	1,000
電子情報通信学会情報セキュリ ティ研究会 / 情報処理学会コン ピュータセキュリティ研究会 副委員長 / 幹事 花岡 / 千田 悟一郎 / 浩司	第18回セキュリティ国際ワークショップ (IWSEC2023)	900
OFS日本委員会 運営委員長 中村健太郎	第28回光ファイバセンサ国際会議	1,000
ISAAC2023組織委員会 組織委員長 牧野和久	34th International Symposium on Algorithms and Computation 2023 (ISAAC2023)	1,000
東京農工大学 准教授 山田浩史	The 29th IEEE International Conference on Embedded and Real-time Computing Systems and Applications / The 12th IEEE Non-Volatile Memory Systems and Applications Symposium	1,000

8件 7,700千円

2022年11月期 シンポジウム・セミナー等開催援助(社会貢献分野)

申込団体名・申込者	会議、シンポジウム・セミナー等名	援助金額 (千円)
一般社団法人ことばのまなび工房 代表理事 若林茂則	FY 2023 SMILE (Students Meet Internationally through Language Education) Symposium	900
特定非営利活動法人 報道実務家 フォーラム 理事長 瀬川至朗	報道実務家フォーラム2023	1,000
オンライン防災 代表 黒田典子	オンライン防災2024 ～命を守るコミュニティ～	800

3件 2,700千円